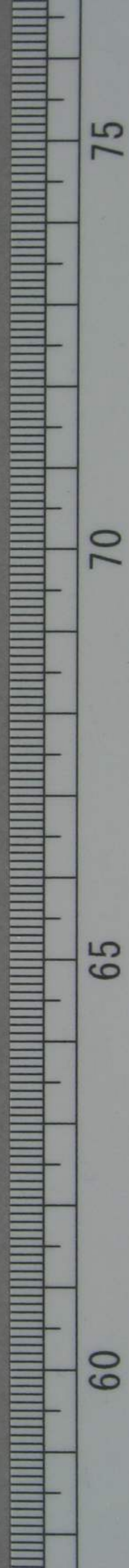


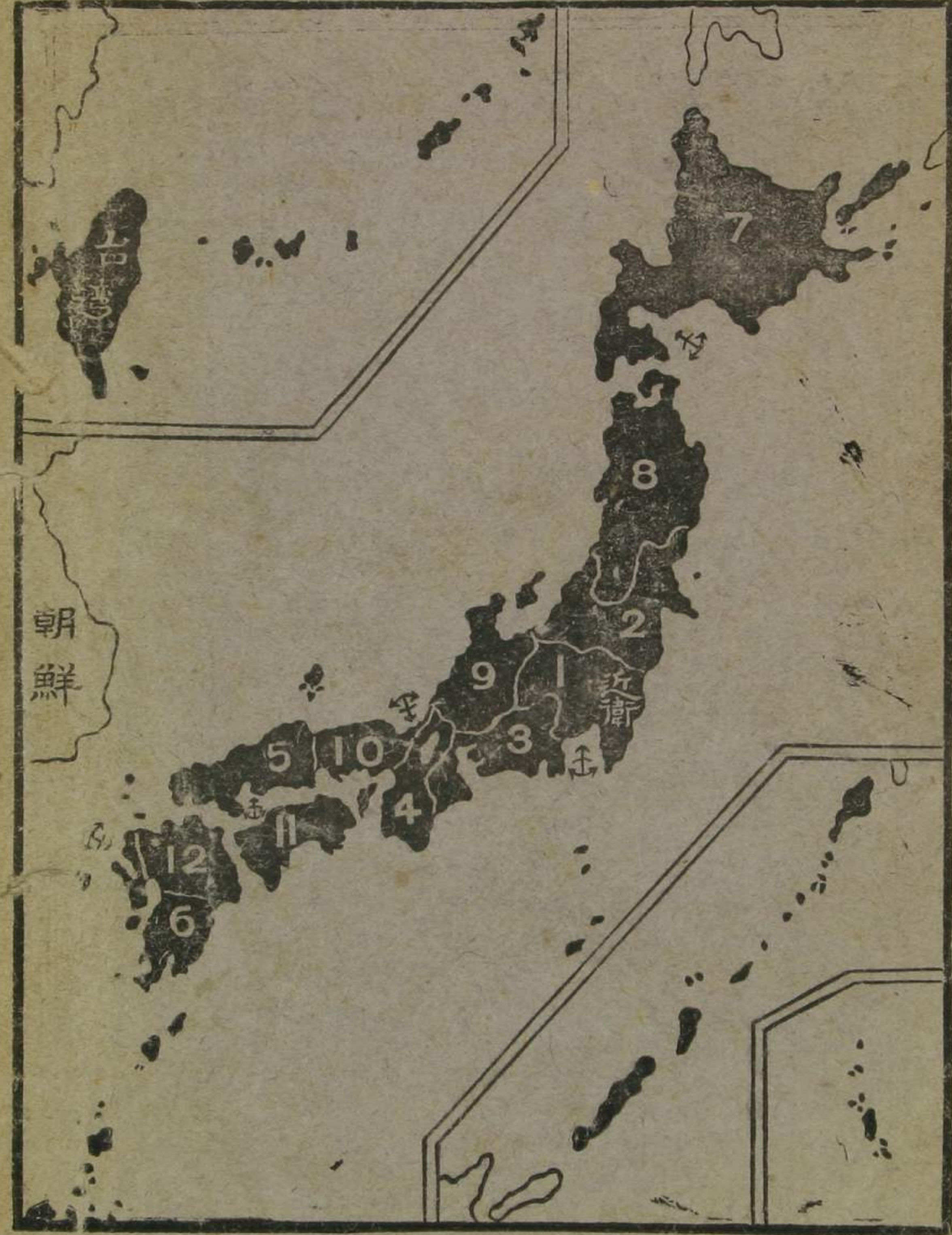
東高等音樂學校教授 山田源一郎先生作曲
大槻如電先生作歌

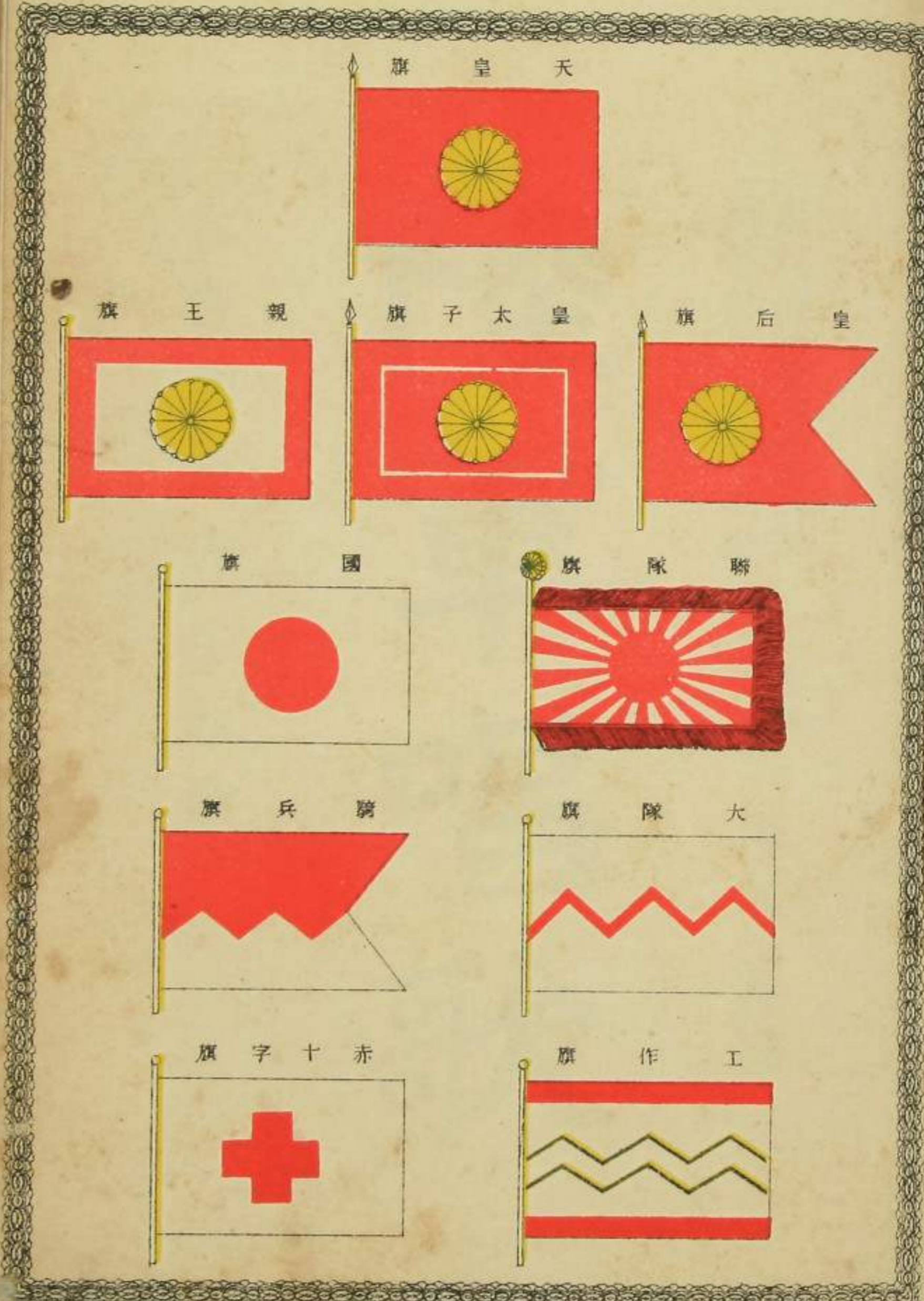


東京秀英舍發行









長野縣上田郡飯嶋村南町通り

小林正一



陸軍唱歌

東京音樂學校教授
高等師範學校講師

山田源一郎先生作曲

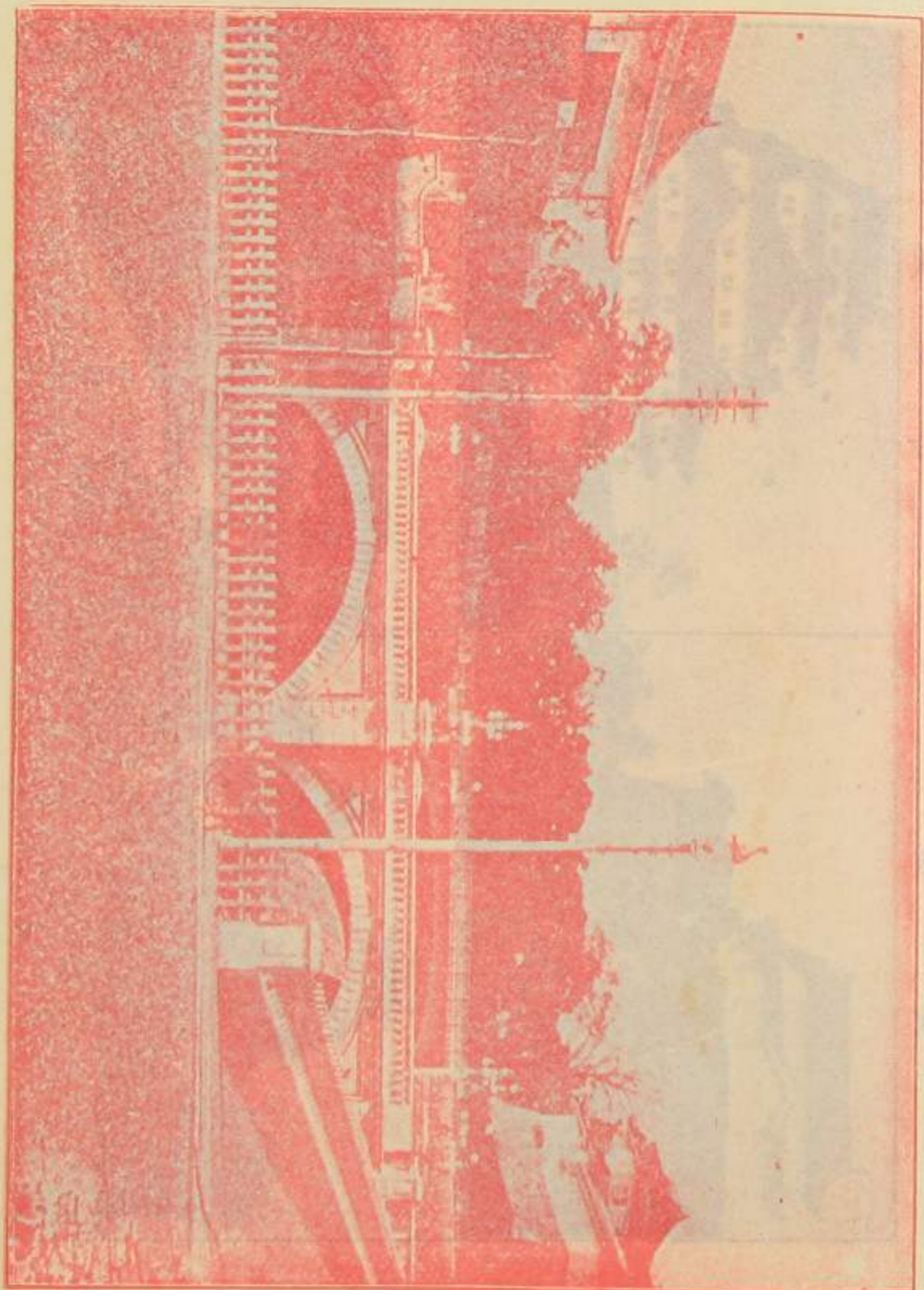
大槻如電先生作歌

大將軍軍犬主君燭

對軍燭

高峯曲藤學對編
東京音樂學對錄

山田鴉一撰
主君曲

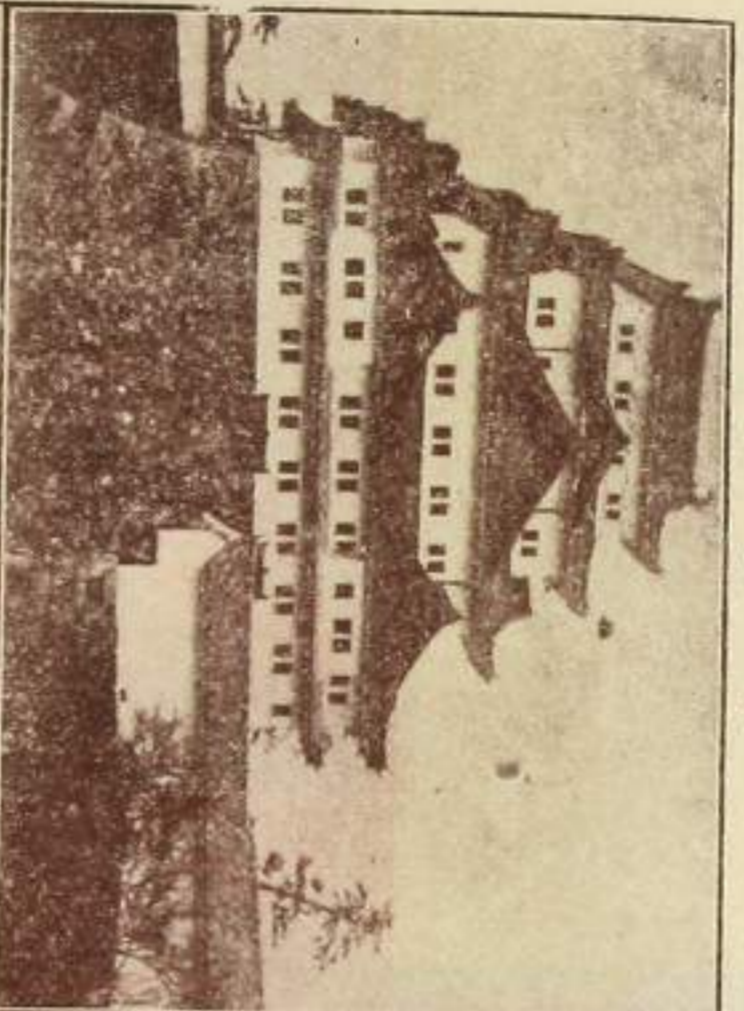


(東京藝地原田町印刷所印)

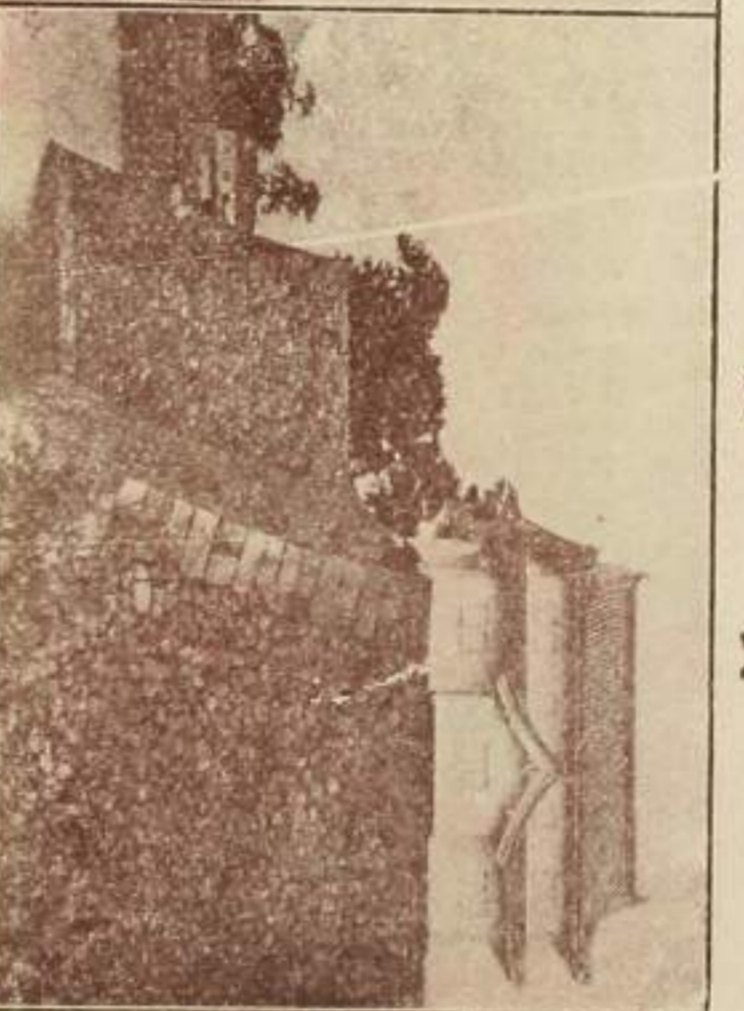


(上海國泰照相館攝)

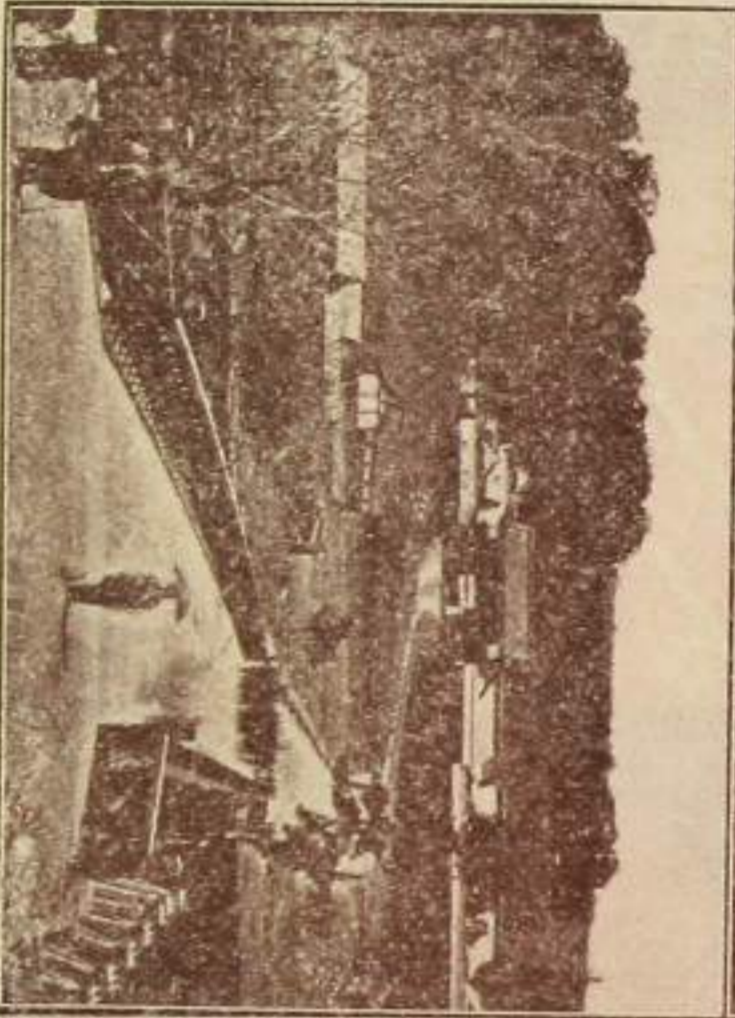
名 古 屋



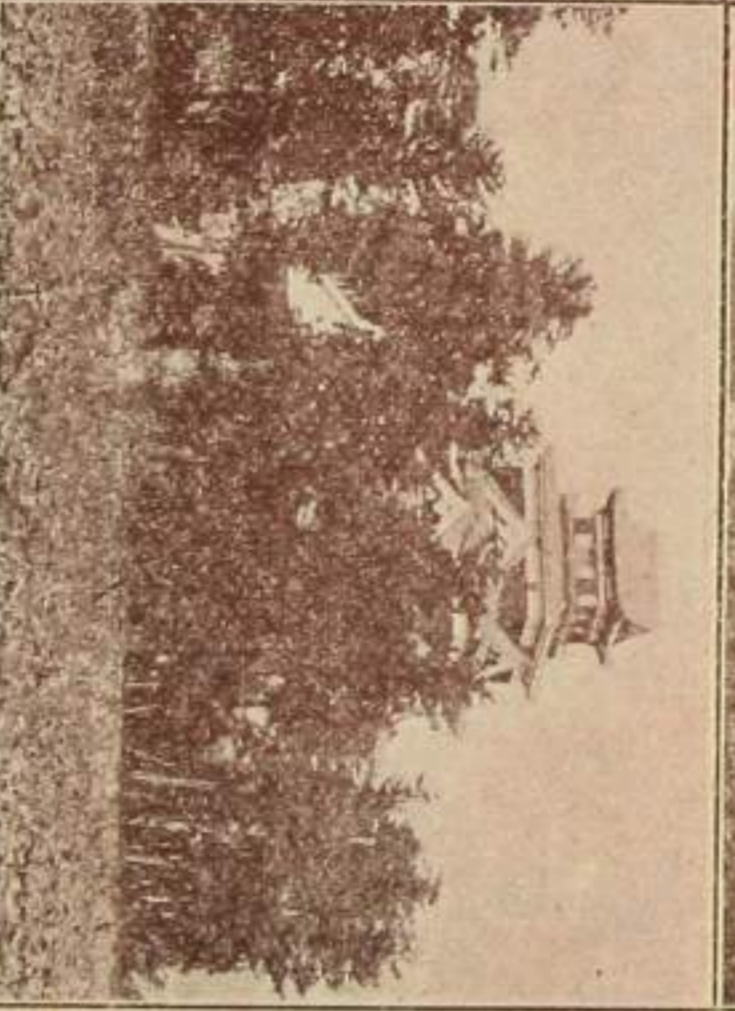
大 坂



仙 山 臺



廣 島



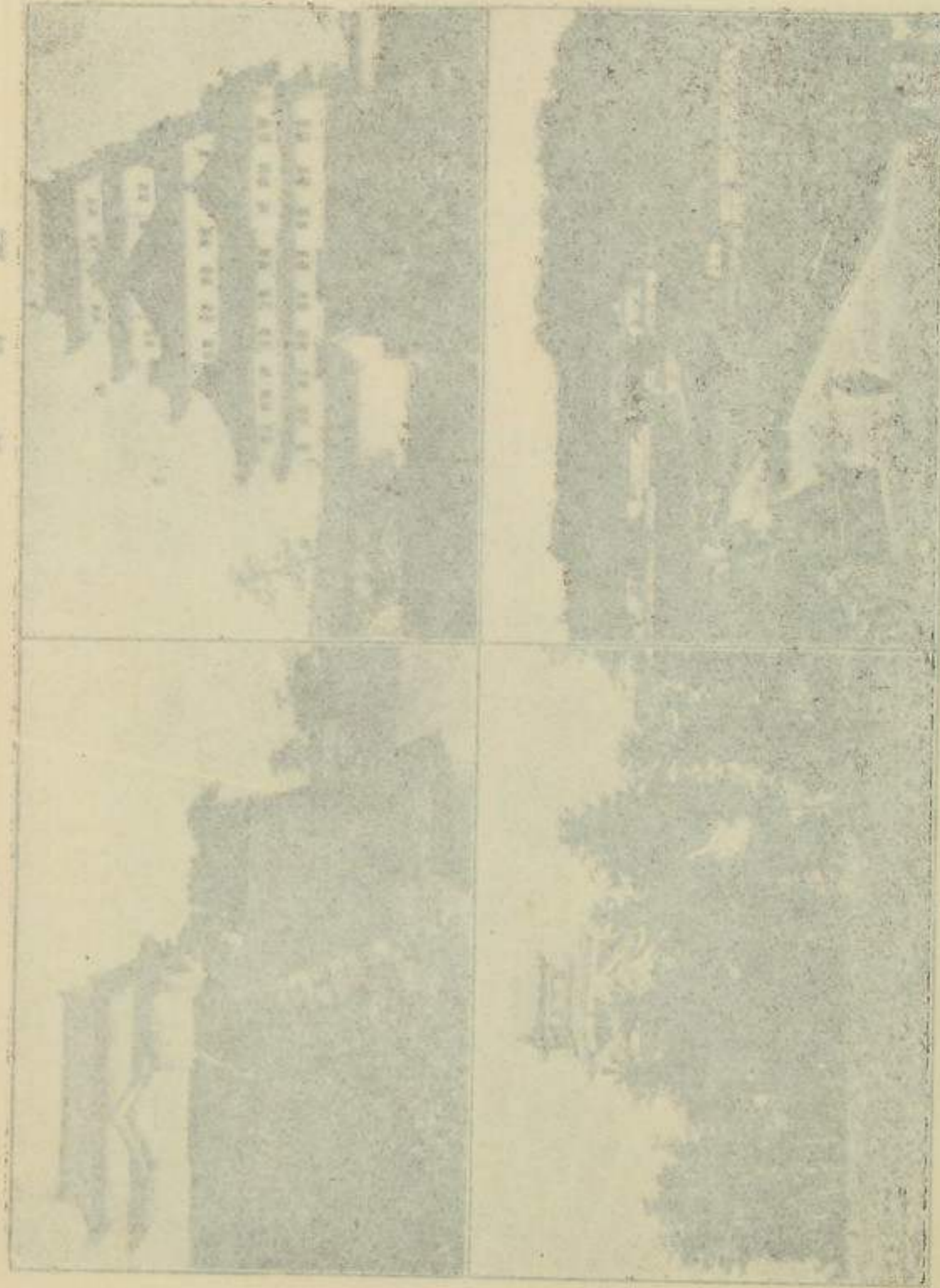
參謀總長
侯爵大山巖君



東部都督陸軍中將
男爵奧保彥君



教育總監陸軍大將
伯爵野津道貫君



陸軍省

大原

陸軍省

大原

將大軍陸督都部中
君太馬佐間久佐爵子



將中軍陸長團師衛近
君道好川谷長爵男



將中軍陸督都部西
君植爲木黒爵男

皇 親 國 戚
侯 爵 大 山 綱 正



尊 旨 與 登 朝 軍 大 將
前 爵 親 衛 正 實 君



東 諸 將 軍 團 軍 中 將
臣 親 衛 正 實 君

將中軍陸長團師二第
君郎次寬西 爵男



將中軍陸長團師一第
君明景村川 爵男



第四師團長
陸軍中將
男爵 小川又次君



第三師團長
陸軍中將
男爵 大嶋義昌君



將中軍陸長團師六第
君昭惟木茨 爵男



將中軍陸長團師五第
君臣素口山 爵男

中將 勳章 陸軍大將
并 勳章 人間 勳章 勳章



國 勳 勳 勳 勳 勳 勳
勳 勳 勳 勳 勳 勳



勳 勳 勳 勳 勳 勳
勳 勳 勳 勳 勳 勳

將中軍陸長團師八第
君文尚見立 爵男



將中軍陸長團師七第
君敏尚迫大 爵男



第十師團長
貞愛親王殿下



第九師團長陸軍中將
男爵大嶋久直君



將中軍陸長團師二十第
君光上井



將中軍陸長團師一十第
君典希木乃 爵男

第一師團長陸軍中將
男爵 川村景太郎



第二師團長陸軍中將
男爵 西沢大淵



第三師團長
男爵 大島義昌



第四師團長
男爵 小田又次郎



第五師團長陸軍中將
男爵 山口素吾

第六師團長陸軍中將
男爵 桑木謙吉

山田源一郎作曲



5. 5 5 5 | 1 5 1 3 | 5 5 5 5 | 3 0

ニーツボン ダンシハ ミナヘイ ヨ
じょうがは げんねき さんがねん



3. 3 3 3 | 5 5 3 3 | 1 1 3. 1 | 1 0

ヘーイニ アラザル ダンシナ シ
よーびは よねんよ そのうへは



5. 5 5 5 | 1 5 1 3 | 5. 5 5 5 | 3 0

ダーンシ カマレテ ニジーツサ イ
こーらび ほじうに こくみん ぐん



3. 3 5 5 | 3. 3 1 1 | 5 5 3. 1 | 1 0

ヘイエキ ツクノガ ホンムゾ ヨ
しじーつさ いーまで へいなるぞ

第十師團長 中將 伊藤 大佐 尙輝彦



第六師團長 中將 伊藤 立見 尙文彦



大將 陸軍大臣 大島 義典



第十師團長 貞愛 王 領才



第十一師團長 中將 伊藤 氏 木谷 典彦



第十二師團長 中將 伊藤 氏 木谷 典彦

山田一瀬曲

The musical score consists of four systems of staves. Each system has a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The lyrics are written in red ink below the notes. The lyrics are: 日本男児はみな兵よ 兵にあらざる男児なし 兵役つくのわ本務ぞよ 豫備は現役三箇年 豫備は四年餘その上は 後備補充に國民軍 四十歳まで兵なるぞ

| 日本男児 | 丁年兵役 | 現役 豫備 | 後備補充 國民軍 |
|-------------|------------|------------|-----------|
| 1 日本男児はみな兵よ | 男児生れて二十歳 | 2 常備は現役三箇年 | 後備補充に國民軍 |
| 兵にあらざる男児なし | 兵役つくのわ本務ぞよ | 豫備は四年餘その上は | 四十歳まで兵なるぞ |

常備師團

3 帝國常備の軍隊は

十二師團に分ちたり

五科兵役

歩兵騎兵に砲工兵

輜重の兵と五科なるぞ

小隊中隊

4 歩兵編成三小隊

合せて中隊一となる

大隊聯隊

四中隊にて一大隊

大隊三箇はこれ聯隊

聯隊組織

5 されば小隊三十六

一聯隊の組織なり

旅團

二箇の聯隊一旅團

歩兵の編成かくぞかし

師團

6 二旅の歩兵に騎砲工

諸兵合せて一師團

軍團 都督

師團の上に軍團や

三部の都督これを總ぶ

士官階級

7 將校は將佐尉大中少

士官學校卒業者

志願服役

或は志願の者よりも

探りて士官に任ずべし

小隊長

8 小隊長は中少尉

中隊ひきぬるこれ大尉

中隊長

大隊長

大隊長は少佐にて

副官つくは是よりぞ

聯隊長

9 聯隊長は大中佐

司令部

司令部おくは五十二區

旅團長

旅團は少將その長官

部下の諸隊を統監す

師團長

10 師團は中將司令部に

參謀副官と法官と

軍醫獸醫

軍醫獸醫の五部を置き

軍事諸件を總理せり

歩兵

11 歩兵は軍の主腦力

攻むるも伐つも守るのも

進退駈引おごそかに

任ずる者こそこの兵よ

騎兵

12 急に臨みて人力の

及ばぬ所馬かりて

縦横無盡に突き崩す

騎兵のはたらき勇しき

工兵

13 胸壁きづき橋梁や

鐵道電線かけわたし

あるひは敵の城壘を

碎くは工兵その任ぞ

砲兵

14 攻城野戰要塞こ

砲兵隊は分れたり

糧食用材斷間なく

後方勤務は輜重なり

輜重兵

近衛師團

15 近衛師團は侍御の兵

本部兵營みな東京

軍紀風紀も嚴正に

軍人すべての摸範たり

師團管國

16 常備師團の管國と

司令本部のあり所

歩兵聯隊四兵營

順次に述べん唱記せよ

第一師團

17 第一師團の其所管

花の東の京より

いろはにほへる神奈川縣

關東諸國に甲斐信濃

18 司令本部に聯隊は

東京二營その他は

名も高崎やさく佐倉

警備の島は小笠原

東京本部
第一聯隊
第三聯隊
十五聯隊
第二聯隊
警備隊

第二師團

19 第二師團は陸前に

師管五國

磐城の海や岩代の山も雪ふる越の後

佐渡が島まで其師管

仙臺本部
第四聯隊

20 仙臺司令部二聯隊

東の海の守りぞよ

十六聯隊
十三聯隊

新發田村松北の海

來いご警備も波の上

警備隊

第三師團

21 第三師團の兵營は

十八聯隊

御代もゆたけき豊橋や

三四聯隊

四海浪風靜岡に

金の鯨鉾城で持つ

名古屋本部

22 名古屋本部の其師管

第六聯隊
三三聯隊

志摩伊勢尾張遠江

師管七國

參河に矢はぎ旗雲は

富士が嶺高し駿河伊豆

第四師團

23 第四師團は畿内

山城 大和 攝河 泉

師管九國

伊賀と近江と紀伊淡路

國の九つ所管する

三八聯隊

24 伏見の營は雪白し

大津の隊は水清し

第九聯隊

金城鐵壁たぐひなき

大坂本部

大坂城こそ本部なれ

第八聯隊

三七聯隊

第五師團

25 第五師團は広島城

聯隊四營の其二つ

廣島本部

動かざるこそ山口と

四一聯隊

北の浪うつ濱田にぞ

四二聯隊

26 師管は中國八州よ

安藝と周防と備中後

警備隊

長門石見に出雲路や

警備隊たぐ隠岐の島

第六師團

27 第六師團の國々は

肥前と肥後と日向より

師管五國

隼人の迫戸の薩摩瀉

國の大隅まで所管

熊本本部

28

熊本本部に鹿兒島や

西は大村四營所ぞ

十三聯隊

警備は沖繩五島など

對馬は司令部別に置く

警備諸島

第七師團

29 第七師團は北海道

千島のはてまで十一國

開拓このかた二十年

土着の兵士を募りしが

30 今は師團の編成に

本部長は札幌二聯隊

其他は猶も屯田の

兵と稱して四大隊

屯田兵

札幌本部

二五聯隊

二六聯隊

二七聯隊

二八聯隊

管國十一

第八師團

31 第八師團は陸奥國

陸中兩羽ぞ所管せる

師管四國

津輕海峽東西の

航路にかゝる要害ぞ

弘前本部

32 司令本部を弘前に

すゑて北門まもりあり

第九聯隊

聯隊四營は本部より

青森山形秋田なり

三二聯隊

十七聯隊

第九師團

33 第九師團は石川や

かたき心の富山縣

師管五國

福井と聞けば笑ふ門

岐阜のあがたも師管なり

金澤本部

34 金澤城は本部にて

四つの營所の其二つ

第七聯隊

鯖江はたけき人さばに

敦賀ぞ海を守りつる

三六聯隊

十五聯隊

第十師團

35 第十師團は十箇國

管する若狹三丹州

師管十國

因伯かけて美作や

備前播磨に津の國ぞ

姫路本部
第十聯隊

36 師團本部は姫路城

四十聯隊

鳥取と共に一聯隊

福智山にぞ二兵營

二十聯隊
三九聯隊

陰と陽と分れ路

十一師團

37 十一師團は玉もよし

讚岐の國より南へ

師管四國

阿波土佐伊豫と巡ゆく
四國の島ぞ其所管

丸龜本部

38 丸龜城はよろづよこ

十二聯隊

司令本部をここに建て

二二聯隊

聯隊四營の其半

四四聯隊

松山高知ふたたもて

十二師團

39 十二師團は九州の

北部を管す豊前豊後

師管六國

筑前筑後の四箇國に

肥前と肥後の一部分

小倉本部

40 小倉本部は門司の戸を

十四聯隊

守る海路は玄界洋

二四聯隊

共に向へる福岡と

四八聯隊

久留米とたける二兵營

臺灣守備

41 臺灣守備は別に又

混成旅團の派遣兵

總督府

旅團といへど其組織

師團に同じ總督府

憲兵

42 憲兵隊は軍人の

非違を検する警察官

聯隊各區に配置して

行政司法も兼務せり

43 敕諭五條は軍人の

誠心なりこの 大御言

かしこみ多き事ながら

こゝに其要のべん

44 忠節つくすが軍人の

本分なるぞよ國まもれ

山岳よりも義は重く

鴻毛よりも死は軽く

45 禮義たゞすは軍人の

上下一致の基なり

上は威愛に心がけ

下は敬禮つくすべし

46 武勇たふさぶ軍人の

膽力ねりて事謀れ

大敵たりとも懼れずに

小敵たりとも侮らず

信義

47 信義 しんぎ まもるは軍人の ぐんじん

言行 げんこう おもんじ成否 せいひ をば

深く思考 しこう し理非公私 りひこうし

踏 ふ みな迷 まよ ひを順逆 じゆんぎやく を

質素

48 質素 しつそ を旨 むね と軍人の ぐんじん

輕薄 けいぱく 驕奢 けうしゃ は身 み の不幸 ふこう

こゝろ文弱 ぶんじやく に流 なが れなば

士風 しふう 兵氣 へいき も衰 おとろ へん

明治三十三年十月廿五日印刷
同 三十三年十一月一日發行

定價金六錢

著作權
所有

著者 大槻 如電
作曲者 山田源一郎
發行者兼印刷者 今關 榮藏

東京京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行所
關西大賣捌

東京市京橋區南傳馬町二丁目
大坂市東區備後町四丁目

秀英舍
吉岡平助

軍艦唱歌 全一册 定價金六錢
教育勅語唱歌 全一册 定價金六錢